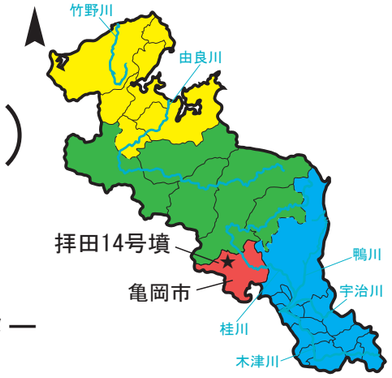
京埋セ現地説明会資料 23-5
令和６年２月 17 日（土）

拝田（はいだ） 14 号墳（ごうふん）（第２次調査）



調査場所　亀岡市千代川町拝田
調査期間　令和５年 10 月 19 日～令和６年２月末（予定）
調査機関　公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

拝田 14 号墳全景（北から）

拝田 14 号墳は、亀岡盆地の北西部に位置する丘陵の南斜面に造営された古墳です。

今回の発掘調査で、葺石（ふきいし）や埴輪列（はにわれつ）、周溝（しゅうこう）の一部が見つかり、古墳時代中期初頭の円墳であることがわかりました。また、古墳の墳頂部には、埋葬施設が残っていました。

写真６　周溝内から出土した埴輪

古墳の周溝から、数多くの埴輪片が出土しました。その大半が円筒埴輪であり、墳丘上に並んでいた円筒埴輪が、周溝に転落したと考えられます。

円筒埴輪はその特徴から、古墳時代前期末から中期初頭のものと推定されます。

また、出土した埴輪には朝顔形埴輪や蓋形（きぬがさ）埴輪などもありました。

まとめ

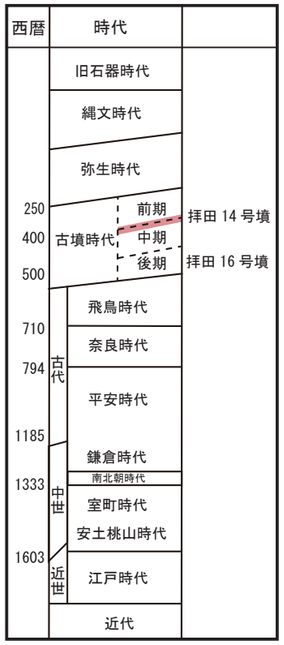
今回の発掘調査では、拝田 14 号墳は周溝を伴う円墳であること、外表施設として葺石・埴輪列・段築を持つことがわかりました。また、その結果、墳丘規模が直径約 30m、周溝含めた直径が約 40mであることがわかりました。そして、墳頂部で検出した木棺の痕跡の形状から、埋葬施設は割竹形木棺を直葬していたと判断されます。

南丹地域において、古墳時代前期末から中期初頭に築造された古墳の発掘調査事例が少なく、拝田 14 号墳の調査は、南丹地域の古墳の造営を考える上で、貴重な調査成果となりました。

これまで拝田古墳群は、16 号墳（前方後円墳）を中心とする古墳時代後期の古墳群とされていましたが、14 号墳については古墳時代中期初頭の円墳であることがわかりました。今後、拝田古墳群の造営時期やほかの古墳との関連性について検討する必要があります。

南丹地域で、古墳時代前期末に造られた全長 82mの前方後円墳である園部垣内（そのべかいち）古墳の少し後に築造されたのが拝田 14 号墳と考えられます。当時の古墳として段築葺石や埴輪列などの外表施設を設けていることや、埋葬施設として割竹形木棺を使用していることから、この地域を治めていた首長が被葬者であると考えられます。

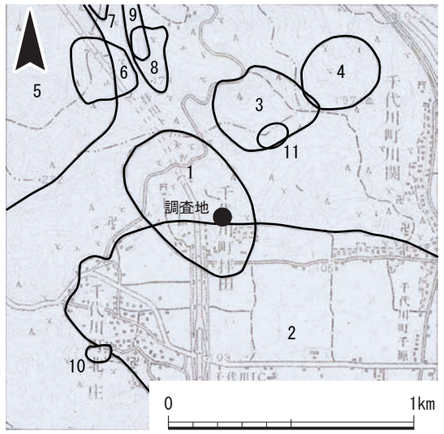
最後になりましたが、今回の発掘調査にご参加いただいた皆様ならびに地元の皆様、関係機関の皆様のご指導とご協力に対し深く感謝申し上げます。



南丹地域の主な古墳時代前期後葉～中期中葉の古墳（所在地・墳形・墳丘規模）

前期後葉	園部垣内（園部町内林・前方後円墳・82m）
前期末	向山（篠町王子・円墳・32m）
	出雲武式（千歳町出雲・円墳・19m）
中期初頭	拝田14号墳（千代川町拝田・円墳・約30m）
	三ツ塚二号墳（篠町王子・円墳・約30m）
	浄法寺一号墳（篠町浄法寺・円墳・約30m）
	桝塚（篠町野条・方墳・約40m）
中期中葉	瀧ノ花塚（篠町野条・方墳・約30m）
	坊主塚（馬路町池尻・方墳・約38m）
	天神塚（旭町杉・方墳・約30m）

KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
http//www.kyotofu-maibun.or.jp



第１図　調査地位置図（S=1/25000）

1 拝田古墳群　2 千代川遺跡　3 大法寺古墳群　4 上川関古墳群
5 八木城跡　6 小谷古墳群　7 木郷遺跡　8 内山古墳群
9 内山城跡　10 矢ノ尾谷遺跡　11 家老ヶ岳城跡

第２図拝田古墳群　古墳分布図

写真２　５トレンチ　葺石と周溝（南東から）

写真３　８トレンチ　墳頂部で確認した木棺の痕跡（南から）

はじめに

今回の発掘調査は、亀岡中部地区における国営緊急農地再編整備事業に伴い、拝田 14 号墳の墳形や規模などを確認する目的で実施しました。

拝田古墳群は、千代川町拝田の丘陵南斜面に 18 基からなる古墳群です（第１・２図）。従来は、全長約 44mの前方後円墳である 16 号墳を中心とする古墳時代後期に造営された古墳群と見られていましたが、今回の調査で、拝田 14 号墳は古墳時代中期初頭の円墳であることがわかりました。

調査概要

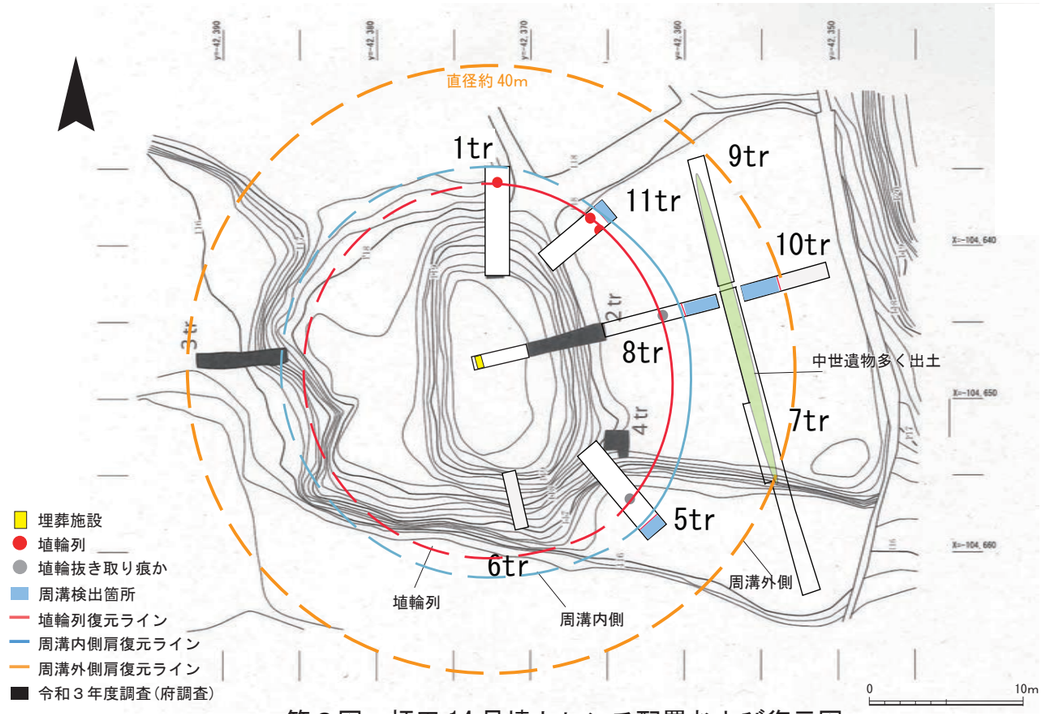
１トレンチでは、古墳の表面の葺石や基底石を確認しました（写真１）。

５トレンチでは、古墳の墳丘一段目の葺石を確認しました。また、周溝から埴輪片が多く出土しました（写真２）。

８トレンチでは、墳頂部で木棺の痕跡が見つかり、棺底で朱を確認しました（写真３）。木棺の形状から、割竹形木棺と考えられます。８トレンチで検出した埴輪の抜き取り痕から約１ｍ東で、溝状に掘り込まれた周溝を確認しました（第３図の青色で示した部分・写真４）。周溝の外側は、中世以降の攪乱や削平を受けているため、正確な規模は不明ですが、周溝の幅は少なくとも６ｍあることがわかりました。この場所で周溝が見つかったことから、拝田 14 号墳は直径約 30mの円墳であることがわかりました。

11 トレンチでは、段築の平坦面の礫敷と埴輪列を確認しました（写真５）。埴輪列は、底部の一段分（約 15cm）が埋められた状態で見つかりました。埴輪の間隔は約 0.8mであり、等間隔で古墳を一周していたと推定されます。

14 号墳は埴輪列がある平坦面を持つことから、二段築成の古墳の可能性が考えられます。



第３図　拝田 14 号墳トレンチ配置および復元図

写真１　１トレンチ　葺石と基底石（東から）
（白線：葺石復元　黄線：基底石）

写真４　８・10 トレンチ周溝断面（南から）
（白線が周溝の底部）

写真５　11 トレンチ埴輪列検出状況（北東から）
（白破線が埴輪列）